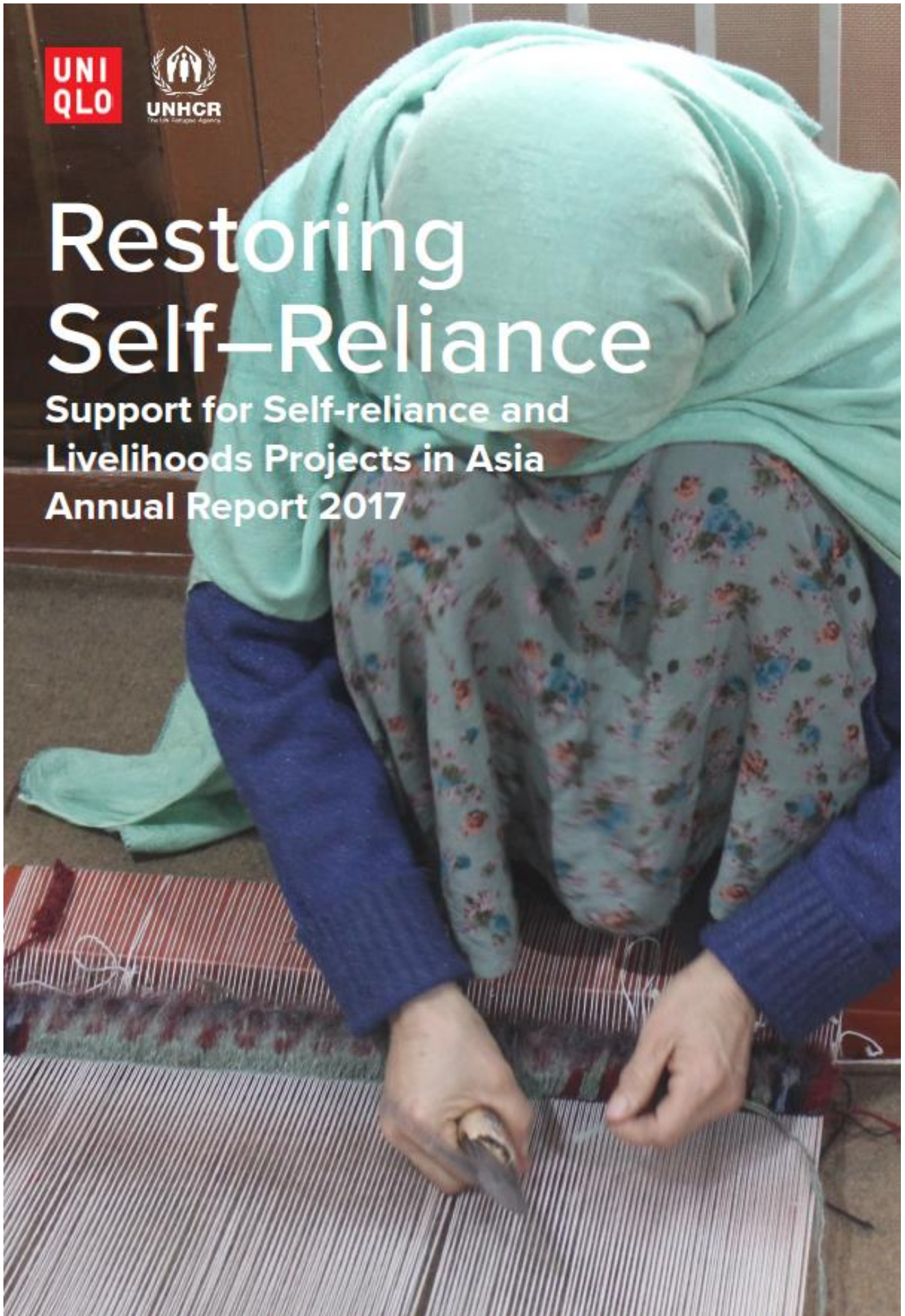




# Restoring Self-Reliance

Support for Self-reliance and  
Livelihoods Projects in Asia  
Annual Report 2017



# 自立の促進

## ファーストリテイリング/ユニクロの支援による アジアにおける自立・生計支援プロジェクト 2017年 活動報告書

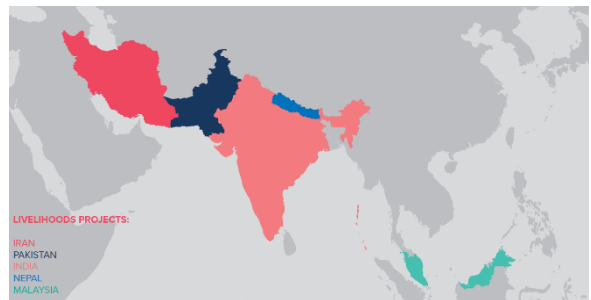
### 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の自立・生計支援プログラム

難民の自立を促すことは、難民保護、エンパワーメント（能力開発）やレジリアンス（強靭性）を強化するための重要な方針です。近年、UNHCR は難民や UNHCR の支援対象者 (PoC)<sup>1</sup> に対し、自立を奨励し優先して取り組んできました。

自立・生計支援は UNHCR の 2017-2021 年の事業戦略 ([UNHCR's Strategic Directions 2017-2021](#)) にも分野を横断したテーマとして全体にわたって掲げており、2019 年の年間計画書作成に向けた国連難民高等弁務官のガイダンスにても強調、組織全体として踏襲すべき重要事項となっております。

難民受け入れ国などでは「難民の自立の促進とは、難民問題の恒久的解決を達成するために集中的に取り組む必要性があり、特に長期化した状況では難民の人権の確保、レジリアンス、コミュニティ・エンパワーメントを導く活動に取り組む」ように提言しています。その活動には「難民の登録、自立支援、雇用促進、難民保護のための補完的な受け入れ」なども含まれています。

ユニクロの支援により、インド、イラン、マレーシア、ネパール、そしてパキスタンの5ヶ国では、より質の高い職業技術、生計能力向上に向けた研修・訓練プログラム、小規模ビジネスへの発展、雇用促進カウンセリング、金融サービスの利用等の機会を提供できました。また、この5ヶ国では、開発支援機関やコミュニティグループ、UNHCR の活動を持続的に支援する企業とのパートナーシップ構築もできました。しかしながら、雇用に関する法的権利、言語・文化的障壁、避難に終わりが見えないなどの困難もあります。このような状況の中、UNHCR の生計支援プログラムは難民が受け入れられた地域の中でより良い生計、そして恒久的な解決策、さらには明るい未来に向けての希望の一助となっております。



### ファーストリテイリング/ユニクロの支援による UNHCR の 2017 年自立・生計支援プロジェクトの達成状況概要

ファーストリテイリング/ユニクロによる支援により、

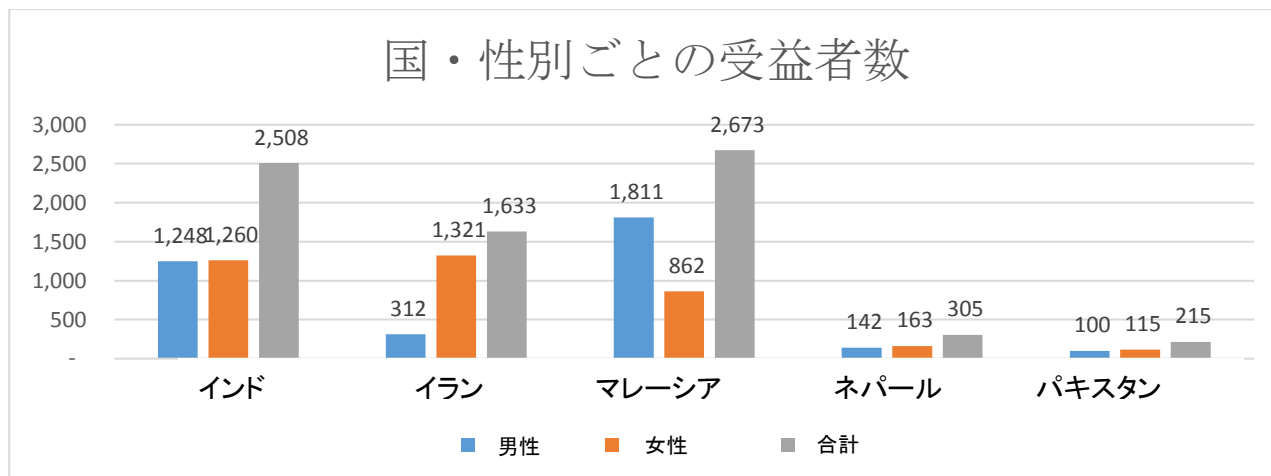
- 合計 7,334 名が自立・生計支援プロジェクトにより裨益。
- 男女の内訳は、女性 3,721 名 (51%)、男性 3,613 名 (49%)。
- 各国が設定した受益者の合計目標数 (7,414 名) における達成レベルは 99%。

表紙写真: アフガン難民、マライカ(Malaika)さん。パキスタンのクエッタにおいて、ファーストリテイリング/ユニクロのサポートによる'Safe from the Start Project'のマスタートレーナーとしてキルム絨毯を織る技術を見せている。©UNHCR/Humera Karim/2017

<sup>1</sup> Persons of Concern (POC) 難民、帰還民、無国籍者、国内避難民(IDPs)、庇護申請者を含めた支援対象者



## 国・性別ごとの受益者数



## ファーストリテリング/ユニクロの支援による自立・生計支援プロジェクトの結果概要

活動	合計			男性		女性		若年層	
	目標値	実績値	%	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
<b>インド</b>									
スキル・職業トレーニング	575	456	79%		229		227		
起業トレーニング	330	201	61%		108		93		
雇用/実習	750	378	50%		172		206		
コミュニティ活性化	1,000	1,318	132%		684		634		
難民自立・生活支援(ハイデラバード)		155			55		100		
合計	2,655	2,508	94%	-	1,248	-	1,260	-	-
<b>イラン</b>									
職業トレーニング	1,344	1,384	103%	349	312	995	1,072	90%	1,384
在宅事業開発(スタートアップ)	101	103	102%	-		100	103	60%	82
雇用創出(トレーニング+OJT)	135	146	108%	-		135	146	60%	116
合計	1,580	1,633	103%	349	312	1,230	1,321		1,582
<b>マレーシア</b>									
就職準備トレーニング	1,420	2,243	158%	710	1,662	426	581	284	668
スキルトレーニング、成人へのリテラシートレーニング	310	350	113%	93	118	124	232	93	108
小規模事業開発	60	80	133%	12	31	36	49	12	25
合計	1,790	2,673	149%	815	1,811	586	862	389	801
<b>ネパール</b>									
スキル・職業トレーニング&起業サポート	299	305	102%	141	142	158	163	-	-
マイクロファイナンスサポート	875	-	0%	-	-	875	-	-	-
合計	1,174	305	26%	141	142	1,033	163	-	-
<b>パキスタン</b>									
職業スキルトレーニング(起業助成金含む)	215	215	100%	80	100	145	115		
合計	215	215	100%	80	100	145	115	-	-
総計	7,414	7,334	99%	1,385	3,613	2,994	3,721	389	2,383

注: イランの若年層は18歳から35歳、マレーシアの若年層は29歳以下で分類されています。

ユニクロの支援は、パートナーシップや生計に関わるサポートシステムの構築にも貢献しました。例えば、マレーシアでのアウトリーチ活動は地域の社会企業家、研究機関、NGO等との連携という結果をもたらし、生計支援関係者による調整会議は2度開かれました。パキスタンでは、技術研修が提供されている10ヶ所全ての研修所がバローチスターン州労働省傘下の商業試験委員会によって登録・承認され、同委員会によって研修修了証書が授与されます。インドのハイデラバードでは、難民の貯蓄習慣を促進するために自助支援グループが設置され、このグループは資金の活用や返済方法についての研修を受けました。

### 主な成果・結果

#### インド

- 財務・生計能力向上研修を実施し、94%（対象者306名中288名）が研修を修了し、証明書を受領。
- 実用・職業技術研修を実施し、97%（対象者147名中144名）が研修を修了し、証明書を受領。
- 起業・ビジネス研修を受けた後、59%（対象者122名中72名）にスタートアップ資金が提供。
- 268名（男性127名、女性141名）の対象者が就業。

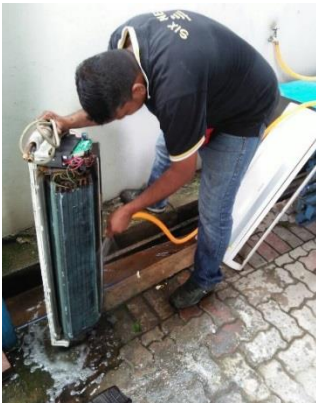




## イラン

- UNHCR によって行われた生計支援プロジェクトの恩恵を受けた女性の約 80%は労働・社会福祉省の外郭団体である技術・職業訓練機関の修了生。
- ビジネスプロジェクトを受けた女性の 80%（対象者 103 名中 82 名）が小規模在宅ビジネスを開始し、420 名の家族も裨益。
- 12 名のアフガン人とイラン人 がワークショップを受け、収入・雇用創出など在宅ビジネスが拡大。
- 146 名の女性が UNHCR の支援による雇用創出ワークショップに参加し、730 名の家族も裨益。
- 雇用創出ワークショップから女性 35 名がユニクロのラデュレ刺繍プロジェクトに参加し、その副収入から 175 名の家族も裨益。

## マレーシア



クアラランプールで空調ユニットを修理している、職業訓練の参加者セルバン (Selvam) さん

- 1 ヶ月の理容・美容技術向上研修を実施し、参加者の 83%（対象者 30 名中 25 名）が、12 ヶ月の理容師・美容師資格取得研修を修了。
- 対象者の 100%（対象者 120 名中 56%が女性）が基礎コンピューター研修を修了。
- 対象者の 13%（412 名中 55 名）が、1 件以上の無料資格コースを修了。
- 対象者の 55%（110 名中 60 名）が市場につながる職業訓練を修了。
- 対象者の 86%（14 名中 12 名）が出産後のケアトレーニングを修了。
- 対象者の 66%（80 名中 53 名）が小規模経営研修を終え、ビジネス助成金を授受。現在、修了生の 100%が事業に従事、その半分は未経験者。また、修了生の 91%が収入の増加、81%が家計費の増加を報告。
- 2016 年のデータによる評価では、起業研修への参加者 580 名のうち、229 名（39%）は研修終了 12 ヶ月後経過しても自営業に従事。

## ネパール

- 職業・技術訓練参加者の 97%（ブータン難民 224 名中 218 名）が研修コースを修了。
- 職業訓練を修了した 218 名の対象者のうち 60%（130 名の修了生）が自営業を始めるための道具一式を受け取り、9%（19 名の修了生）が就職活動の支援を受ける。
- ブータン難民の 29%（218 名中 64 名）が職業訓練後 3 ヶ月で就職もしくは自営業を開始。
- 12 名のブータン難民がミシンや用具、素材についての 3 ヶ月間のメンテナンス・修理研修を受け、使われていなかった 28 台のミシンを修理。
- 都心部の対象者全員（70 名）が職業・技術訓練を修了し、245 名の家族が間接的に裨益。
- 生計支援研修を修了した都心部の対象者全員（70 名）が修了後 3 ヶ月で就職。
- 生計関連の研修と共に、97 名の難民が言語力向上のためネパール語や英語のコースに参加。



ネパールで料理の職業訓練に参加し、彼の店で食事を提供するプシュパ (Pushpa) さん



パキスタンのセーフ・フロム・スタート・プロジェクトで学んだ仕立て技術を見せるビビ・ホア (Bibi Hoor) さん

## パキスタン

- 215 名のアフガン難民全員が 10 か所の商業エリアで 6 ヶ月間の職業・技術訓練試験に合格し、バローチスターン州労働省傘下の商業試験委員会から修了証を取得。

2017年 資金概要 (米ドル)

	予算			支出		
	生計プログラムの予算合計	生計プログラムへのユニクロからの拠出金	生計プログラムにおけるユニクロの拠出金の割合	生計プログラムの支出合計	生計プログラムへのユニクロからの拠出金	生計プログラムにおけるユニクロの拠出金の割合
インド	\$709,233	\$468,052	66%	\$709,233	\$468,052	66%
イラン	\$1,622,273	\$450,000	28%	\$1,660,809	\$450,000	27%
マレーシア	\$501,902	\$423,005	84%	\$516,250	\$423,005	82%
ネパール	\$284,285	\$112,150	39%	\$306,557	\$112,150	37%
パキスタン	\$2,595,955	\$205,607	8%	\$2,603,381	\$205,607	8%
日本(ワークショップ)		\$23,437			\$23,437	
7%のプログラム支援費用 (PSC)		\$117,757			\$117,757	
合計	\$5,713,648	\$1,800,008	32%	\$5,796,230	\$1,800,008	31%

支出内訳 (米ドル)

国	プロジェクト	受領した金額	支出				残額
			UNHCR プロジェクト	UNHCR スタッフ	実施団体	7% PSC	
インド	デリーの難民自立と生計、コミュニティー活性化の強化・拡大	\$ 500,816	\$ 8,974	\$ 136,902	\$ 322,176	\$ 32,764	-
イラン	技術支援	\$ 42,800	\$ 32,315	-	-	\$ 2,800	\$ 7,685
イラン	公的職業訓練	\$ 288,900	-	\$ 80,000	\$ 197,685	\$ 18,900	(\$ 7,685)
イラン	在宅事業拡大/ワークショップを通じた雇用創出	\$ 149,800	-	\$ 60,000	\$ 80,000	\$ 9,800	-
マレーシア	研修・学習への参加	\$ 111,720	\$ 26,734	\$ 22,154	\$ 55,523	\$ 7,309	-
マレーシア	賃金雇用の促進	\$ 13,469	\$ 662	\$ 171	\$ 11,755	\$ 881	-
マレーシア	部門別資金供与、バウチャー <sup>2</sup> の提供	\$ 37,524	-	-	\$ 35,069	\$ 2,455	-
マレーシア	戦略作成・実行	\$ 289,903	\$ 112,943	\$ 104,576	\$ 53,418	\$ 18,966	-
ネパール	都市部の難民への職業技術訓練とスタートアップ費 (初等・高等の仕立業)	\$ 40,000	-	\$ 6,183	\$ 31,200	\$ 2,617	-
ネパール	ブータン難民への職業技術訓練、用具提供	\$ 80,000	-	\$ 9,647	\$ 65,120	\$ 5,233	-
パキスタン	アフガン難民の技術向上	\$220,000	-	\$60,608	\$145,000	\$14,392	-
日本	ワークショップ	\$23,437	-	-	-	\$ 1,640	-
合計		\$ 1,800,009	\$ 181,628	\$ 480,241	\$ 996,946	\$ 117,757	-
支出別割合		100%	11.4%	26.7%	55.4%	6.5%	-

<sup>2</sup> バウチャーとは、目的を限定して個人や世帯を対象に物資や食料を支給する交換券・引換券をさす。



## 2017年 年間成果

### 自立・生活支援

2017年には5ヶ国で合計7,334名の対象者が裨益。

#### インド

2,508名（男性1,248名、女性1,260名）がUNIQLOのプログラムを通じて受益  
94%の参加者が財務・生活スキルトレーニングを修了  
97%の参加者が実用・職業スキルトレーニングを修了  
268名が就業

#### イラン

職業訓練を受けた80%の女性が、小規模在宅ビジネスを開始  
230名の女性への支援を通じて、1,150名の家族が間接的に裨益  
雇用創出ワークショップに参加した35名の女性がUNIQLOとLadureeの刺繍プロジェクトに従事

#### マレーシア

小規模事業トレーニング修了者の91%の収入が増加  
120名の若者がコンピューター研修（基礎）を修了  
32名が見習い訓練に参加  
起業トレーニング終了12ヶ月後も229名が自営業に従事

#### ネパール

職業訓練に参加した218名のブータン難民が研修を修了  
都市部の生計研修への参加者全員の生計・自立向上の機会が増加  
3ヶ月のミシン修理研修を受けた12名のブータン難民が28台の使われていないミシンを修理

#### パキスタン

10箇所の商業地域で6ヶ月の職業訓練を受けたアフガン難民全員が試験に合格し、バロチスターン州政府から証明書を取得

## 現場からの声

### アデラ（Adeela）さんの話

「経済的に自立することで、意思決定の場に参加することができました」

45歳のアフガン難民のアデラさんは、14歳の娘の未成年での結婚に大きな懸念を抱いていました。アデラさん自身も13歳で結婚し、2人の娘と6人の息子を出産しました。

2017年1月、アデラさんは、‘Safe from the Start’プロジェクトに参加しました。これはジェンダーに基づく暴力防止イニシアティブで、生計支援プロジェクトの一環として実施されているものです。その中で彼女は、絨毯織り、仕立て、読み書き、さらにさまざまな権利について学び、自分の娘たちや近所の女性に新たな知識を伝えています。

また、アデラさんは絨毯織りと仕立てを通じて生計を立てています。彼女は家族に食料や他の生活用品を買うことができ、喜びを感じています。

アデラさんは女性はコミュニティーで価値のある貢献をするために、教育や自分自身を高める術が必要であると話しています。また、彼女は身体的にも精神的にも成熟するまで娘を結婚させないと言っています。



アデラさんは、学び、働けることは彼女の人生にとって最も大きな財産あるとし、働いたり、自らの権利を行使するよう周囲の女性を激励しています。

### ハシナ (Hashinah) さんの話

「私は仕事を仕事だと感じません。お客さんに会いに出かけることは、いつもまるで休日みたいです」

ハシナさんはマレーシアでロヒンギャ族として生まれた32歳の女性です。無国籍者として、彼女は3年の非公式の教育しか受けることができませんでした。仕事に関しても、多くてひと月に1,000マレーシア・リングgit(約258米ドル)しか稼ぐことができませんでした。さらに、彼女は雇用主や同僚からの耐えがたい差別に直面していました。



ハシナ (Hasinah) さん  
32 歳 マレーシアで小規模事業開発プログラムに参加しました  
©UNHCR/Malaysia/2017

ハシナさんは何度か自営業を営もうと試みましたが、うまくはいきませんでした。ただ、2017年にUNHCRによる小規模事業開発プログラムに招かれました。読み書き、企業計画、マーケティング、会計研修を4ヶ月受け、事業スタート資金として2,000マレーシア・リングgitを支給され、2017年8月にプログラムを修了しました。

ハシナさんは現在クアラルンプールで洋服の卸売り業を行い、以前の3倍となる月3,000マレーシア・リングgitを稼いでいます。さらに彼女は新たなビジネスを始めるため、トラックを購入しました。

自分で稼いだ収入で、彼女はインドネシアで難民保護を求めている兄妹とクアラルンプールにいる病気の母親をサポートしています。

### ベハザッド (Behzad) さんの話

「デリーで仕事の機会を得たことに感謝します。この仕事によって、自分で稼いだお金で生活できるからです」

2014年、17歳のメルダッドさんは、小さなカバンだけを持って独りであてもないままインドへ逃れてきました。父親が政府に捕まったため、彼はイランから脱出する必要があったのです。

インドでののはじめの4年間で、彼は英語やヒンディー語だけでなくコンピュータ技術も学びました。彼の努力もあり、何とかインド西部都市のNGOで職を見つけ、そこで7年働きました。しかし、NGOがなくなってしまったことにより彼は職を失い、UNHCRのサポートを受けるためデリーへ来ました。

ACCESS生活支援プログラムを通じて適した仕事を見つけ、2017年、メルダッドさんはそこで働き始めました。

メルダッドさんは今も、自分のより良い人生のための確固とした決意を持っています。

### プシュパ (Pushpa) さんの話

「職業訓練は技術向上の機会と飲食店を始めるという人生の究極の夢を与えてくれました。」

32 歳のプシュパ・プラダンさんは料理の基礎・応用コースの職業訓練に参加し、研修修了後、ユニクロによる事業支援の一環で、開店に必要な道具や設備が提供されました。

そして2017年11月、プシュパさんはベルダンギ (Beldangi) 難民キャンプに食堂をオープン。開店時から毎月平均 15,000~20,000 ネパールルピー (150~200 米ドル)を稼ぐようになりました。

「難民支援に対する合理化を受け、支援が徐々に縮小していくにつれ、私は自分と家族を養う方法を模索していました。料理の腕と経験を生かし、自分自身と家族のために収入を確保する最善の仕事が飲食店経営だと考えました」とプシュパさんは言います。





プシュパさんは地元の受け入れコミュニティに対し、ケータリングによる仕出しサービスができるかを検討し、事業をさらに拡大する計画をしています。また、料理のレパートリーやメニューを増やし、サービスの向上も試みています。

### ゼイナブ (Zeynab) さんの話

33歳のゼイナブさんはアフガニスタンから逃れて来た難民で、3児のシングルマザーです。

数年前に仕立てを学び、家具を売ったお金で小型ミシン購入し、在宅で働き始めました。

その後、自身の努力もあり、医療用ユニフォームを製作する契約を複数の病院と結びました。それから事業はますます成長し、ゼイナブさんの会社‘メーレー・アリアン’ (Mehre Arian)は政府からの公式免許を得た4つの会社のうちの1つになりました。

2014年、ゼイナブさんは弱い立場にある13名のアフガン難民を雇用するため、13台の商業用ミシンを支援してほしいとUNHCRへ依頼しました。彼女の努力は雇用された難民の家計を支え、また安心、責任、自尊心と尊厳を与えています。



ゼイナブ (Zeynab) さん 33 歳 職場でミシンを購入するスタートアップ資金を受け取りました  
© UNHCR/Iran/2017

UNHCRはゼイナブさんが与える良い影響を鑑みて、彼女がさらに事業を成長させ、弱者である難民を雇用できるよう、2015年と2017年に再度、資金を供与しました。

現在、‘メーレー・アリアン’ 工房では20名のスタッフが働いています。

名前や人物の特定できるような詳細はプライバシー保護のため変更しています。

